

アジリティー規程の改正について

2023年1月1日より、FCI アジリティー規程が改正されます。

規程改正の主要点は下記の通りで、下線部が追加または変更となりますのでご精読ください。なお、当該規程は2023年1月1日以降に開催される競技会より施行します。

ただし、新たなカテゴリーとなるインターミディエイトの採用につきましては、2022年9月1日以降に開催される競技会より施行いたします。(FCIの大会となります2022年12月23日・24日開催のFCI西日本インターナショナルアジリティー競技大会につきましては、スモール・ミディアム・ラージの3カテゴリーで行います。)

記

<出陳犬について> ※追記いたしました。

FCI インターナショナルアジリティー競技大会(本部アジリティー競技大会・東日本アジリティー競技大会・西日本アジリティー競技大会)における出陳犬は、生後24カ月1日以上とする。

<カテゴリーについて>

インターミディエイト 体高43cm以上、48cm未満の犬
ラージ 体高48cm以上の犬

<障害について>

① フラット・トンネルの採用はなくなります。

② 一重ハードル

高さ：インターミディエイト：45～50cm

③ 二重ハードル

高さ：インターミディエイト：45～50cm

一重ハードルを2つ組み合わせて二重ハードル(スプレッド・ハードル)を構成することができる。バーの高さの差は15～25cmで、低い方から順に設置する。奥のハードルのバーの長さは手前のハードルのバーよりも10～20cm長くなければならない。

分離式ポールの使用は許可される。


二重ハードルの奥行きは下記の数値を越えてはならない。

インターミディエイト：45cm

④ ウォール

高さ：インターミディエイト：45cm～50cm

ウォールは分割式の閉じたものでなければならず、伸縮式のウォールは認められない。上部に3～5個の取り外し可能なユニットがなければならない。この取外し可能なユニットの底及び側面は閉じていなければならない。

ウォール上部のユニットの形：

これらのユニットは半円形でなければならない(例参照)。ユニットの奥行きはそのウォールの他の部分と同じでなければならない。

⑤ タイヤ

開口部直径：50cm～60cm

地面から開口部中心までの高さ：インターミディエイト：70cm

タイヤ・輪の幅：最低 8cm 最大 12cm

タイヤは 8kg 相当の圧力がかかった時に 2 つから 4 つに分割されなければならない。

タイヤは衝撃吸収素材を使用して作られ、形が変わらないようにしなければならない。

タイヤは、その両側の 2 本の縦軸脚によってその位置(高さ)に固定される。フレーム無しタイヤの作りは、容易に倒れないことを保証する十分な安定性を提供するものでなければならない。上部に梁は付けない。

⑥ ロングジャンプ

全長：インターミディエイト：90cm～110cm (3～4 ユニット)

⑦ チューブトンネル

トンネルは柔軟性がなければならず、明るい色の均一な表面の素材で作られていることが推奨される。

チューブ・トンネルは常に最大限に伸ばして使用されなければならない。

トンネルを固定する際は、紐やテープがトンネルの輪郭に沿っていなければならない、歪みが生じたり直径が減少したりしてはならない。

トンネルを固定するために必要なバッグの最小数は 1m につき 1 バッグである(即ち、6m のトンネルには 6 バッグが必要となる)。

⑧ スタート及びゴール

計時装置を使用する場合は、最初と最後の障害に可能な限り近づけて設置しなければならない。それがスタートライン及びゴールラインとなる。計時装置を使用しない場合は、最初と最後の障害がスタートラインと及びゴールラインとなる。

犬が 1 つ目の障害の横を通過してしまった場合は拒絶のため減点とし、スタートライン(最初のハードルのラインを両側からリングの端まで延長したもの)を通過した時点で手動計時装置を作動させる。

スタート地点、ゴール地点は犬が自然なラインでジャンプするのに十分な広さ(少なくとも 6m)があるべきである。

最初と最後の障害はどのジャンプでも良い(ハードル、ウォール、タイヤまたはロング・ジャンプ)。

計時システムをウォール、タイヤまたはロング・ジャンプに安全に設置することが不可能な場合は、当該障害はハードでなければならない(最初の障害は一重ハードルでなければならない、最後の障害は一重ハードルまたは二重ハードルでなければならない)。

<コース上の失敗>

タッチゾーン

ドッグ・ウォーク、Aフレームでは、犬は下りのタッチ・ゾーンに少なくとも1本の足、もしくは足の一部を接触させなければならない。これを怠った場合、1回につき5点の減点となる。犬の4本の足すべてが地面に着いたとき、犬はその障害から離れたとみなされる。

<特定の障害の採点>

①ドッグ・ウォーク

犬は4本の足全てで上りの傾斜路に触れなければならない。それを怠った場合は失格となる。

4本の足が下りの傾斜路に触れる前にドッグ・ウォークから跳び下りた犬は拒絶として減点される（5点）。

②Aフレーム

犬は4本の足全てで上りの傾斜路に触れなければならない。それを怠った場合は失格となる。

下りの傾斜路に4本の足が触れる前にAフレームから跳び下りた犬は拒絶として減点される（5点）。

犬がAフレームの頂点を越えたのち、下りの傾斜路に触れる前に地面に触れた場合は失格とする。

<失格>

①障害を跳躍・通過する前に犬が障害を壊したりした場合、またはコース上で後に再度跳躍・通過しなければならないが、もはや正しく跳躍・通過できないようにする。

②指導手が計時システムをスタート／ストップする。

③指導手が審査員からスタートの許可を得る前に走り始める。

④指導手が出走前後にコース上でトレーニングする。

⑤犬が自然な経路でコースを通過し、ゴールした後に追加の障害に進入できるようなコースが設置されていた場合は、それは失格とは見なされない。

⑥失格となった際は審査員が他の決断を下さない限り、指導手と犬は直ちにリングから退場しなければならない。失格の場合は審査員が（ホイッスル等で）はっきりと合図しなければならない。

<一般事項について>

① 連続する2つの障害間の犬が通過するコースの距離は5 m 未満であってはならない。連続する2つの障害間の直線距離は7 m 超であってはならず、連続する2つの障害間の犬が通過するコースの最大距離は9 m 超であってはならない。

② コースには最大5つまでのトンネル・パフォーマンスを含めることができる。

③ ウィービング・ポールは各コースで使用されなければならない。

インターミディエイトについて

<体高証明について>

- ①インターミディエイトのカテゴリーへ出陳するには、アジリティー競技会申し込み時点において、必ずアジリティー審査員の体高計測のもと体高証明書を発行していただく必要があります。
- ②インターミディエイトへカテゴリーが変更となった際は、技術事業課（TEL03-3251-1656）へお電話にてご報告ください。

なお、インターミディエイトにカテゴリー変更した場合、以降の競技会においてラージクラスへ出陳することはできません。ただし、2022年12月23日・24日開催のFCI西日本インターナショナルアジリティー競技大会につきましては、スモール・ミディアム・ラージの3カテゴリーとなりますので、ラージクラスでの出陳となります。

<世界大会・ヨーロピアンオープンポイントについて>

- ①2022年8月31日までの競技会において、出場選考ポイントを得たラージクラスの犬が2022年9月1日以降の競技会からインターミディエイトに出陳した場合、ラージクラスで得たポイントをインターミディエイトでのポイントとして加算します。
- ②2022年12月23日・24日開催のFCI西日本インターナショナルアジリティー競技大会につきましては、スモール・ミディアム・ラージの3カテゴリーとなり、インターミディエイトの犬は、ラージクラスでの出陳となります。ラージクラスとして出陳したインターミディエイトの犬がポイントを得た場合、インターミディエイトでのポイントとして、加算いたします。